

- ◆新病棟等入札と今後の予定 2
- ◆第1回 六病院研究会を終えて 3
- ◆養護学校長新任の挨拶 4
- ◆リハビリテーション科紹介 5
- ◆院内研究発表会演題・結果 6
- ◆がん患者さんを支える周術期歯科診療 8
- ◆臨床研究部紹介 10
- ◆こじはら内科クリニック紹介 12
- ◆幕張就職説明会・最新CT装置導入 13
- ◆平成26年度出前講座報告と今年度の予定について 14
- ◆新任・退任医師紹介 15
- ◆お知らせ 16

2015
6
25号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

まつもと医療センター
中信松本病院
松本病院

釣り人 松本市島内

新病棟等入札と今後の予定

大きな前進



院長

三度目の正直といいます、お蔭様で「まつもと医療センター病棟等建替整備工事」が二月末に行われました入札(三回目)でようやく落札されました。大きな前進です。多くの皆さまから励ましやご鞭撻をいただきありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

大げさな言い方かもしれません、今回の大入札はまつもと医療センターの岐路でした。うまくいかなかつた際にはぬかるみにはまつてしまつことになつたかもしれません、一歩前に進めて本当によかつたと思います。今回、落札につながつた大きな要因はこの三年間の黒字達成をできたことであり、特に平成二十七年一月から二月の頑張りが大きいい方向に作用しましたように思います。

さて、今回、まつもと医療センター病棟等建替整備工事を落札しましたのは、清水建設株式会社です。落札価格は七十

存じます。

今、まつもと医療センターはエクセルント・ホスピタルを目指し、中身も外見も生まれ変わろうとしております。新病棟が完成の暁には、地域から求められており救急医療をより充実できるとともに、急性期から慢性期の医療をバランス

大げさな言い方かもしませんが、今回の入札はまつもと医療センターの岐路でした。うまくいかなかつた際にはぬかるみにはまつてしまつことになつたかもしまれず、一步前に進めて本当によかつたと思います。今回、落札につながつた大き

「まつもと医療センター病棟等建替整備工事」が三月末に行われました入札（三回目）でようやく落札されました。大きな前進です。多くの皆さまから励ましやご鞭撻をいただきありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

五億六百万円（税込）で、新棟（A棟：地上6階・地下1階、B棟：地上5階・地下1階）（延床面積約2万1300m²）は平成二十九年四月頃に完成予定で、最終的な完成工期は平成二十九年度を予定しています。今後、清水建設により工事表が示され工事がスタートしますが、工事手順としては、①病棟新設→松本病

良く展開し松本市南部から塩尻市地域の中核病院として地域に貢献できる、より素晴らしい病院になると感じます。職員一同、「和」の精神をもつてやさしい医療の提供ができるよう、努力して精進していくたいと思します。今後ともよろしくお願ひいたします。





第1回 六病院研究会を終えて

1月31日



第一回六病院研究会が1月31日に松本病院会議室で開催されました。六病院とは、上條記念病院、桔梗ケ原病院、塩尻病院、塩尻協立病院、中村病院と当センターです。いずれも塩尻と松本市南部地域が主な診療圏です。

研究会に先だって開かれた世話人会で本会の会則が承認されました。本研究会は「六病院の職員を会員とし、会員が持ち寄る病院での医療上の問題点、研究成果について検討ならびに情報交換を行い、地域の住民により良い医療を提供することを目的とする」と謳っています。初めての会となる今回は、特別講演と各施設からの自由演題の2部構成で行われました。

第一部は「地域包括ケアと在宅医療の現状と課題」と題して、県医師会の在宅医療推進委員会委員長で松本市医師会副会長の杉山敦先生をお招きして、特別講演を頂きました。先生は外科消化器系や生活習慣病の管理などの一般診療に携わる一方で、在宅療養支援診療所の指定を受けて最近8年間に72名の患者さんの訪問診療に係わり60名近い患者さんを看取られています。杉山先生の講演の概略は以下のようでした。

「地域包括ケアは、日本で高齢化が急速に進んでいるなかで高齢者のケアに切り札的に登場した政策上の概念である。そのコ

研究会が1月31日に松本病院会議室で開催されました。六病院とは、上條記念病院、桔梗ケ原病院、塩尻病院、塩尻協立病院、中村病院と当センターです。いずれも塩尻と松本市南部地域が主な診療圏です。



アとなる技術はネットワーキングであり、地域包括支援センター（松本市に8カ所、塩尻市に2カ所あり）が要（かなめ）となる。一方、「在宅医療は、生活の場に医療者が訪問して提供される医療と定義されるが、看取るためだけの医療ではない。たとえ進行性で治らない神経難病や進行がんであっても、患者や家族も安心して「とりあえず家で過ごしてみる」スタートが切ればよいのではないか。「少しだけ病院あとは在宅」というかたちで、入院医療と在宅医療が連携して患者さんと家族を支えられるのが理想である。その人らしい生き方を、家族とともに自宅で支えるためには、多職種連携が重要となる。ケアマネジャーや訪問看護ステーションとの連携なしでは在宅医療は成りたたない。」

先生のお話は、さらに実際の事例の紹介を交えて寐たきり高齢者で問題になる褥瘡ケアや在宅での看取りにも及び、褥瘡予防では「手を抜かず、背抜き、尻抜き、踵抜き」が皆の合い言葉であること、在宅での看取りに際しては家族に丁寧にプロセスの説明をされていることなど、が紹介されました。さらに、医師会として、在宅医療を担う診療所を増やし診療所相互の連携の強化にも取り組まれていることを紹介されました。現在進行形である地域包括ケアと在宅医療の取り組みの状況と今後の課題が、先生の豊富な経験を交えて語られ、記念すべき第1回研究会にふさわしい講演であり、参加者は等しく感銘を受けたようでした。

第二部では、各施設が取り組んでいる課題やキラリと光る技（ワザ）の紹介があり、活発な質疑が行われました。紙面の都合で、以下、演題名と講演者の氏名を記します。

地域医療連携室長
大原 慎司



「療養病床での退院支援の現状」

上條記念病院生活相談員、寶角真利子氏
「反復性経頭蓋磁気刺激（TMS）、ポツリヌス治療が切り開く脳卒中リハビリテーションの新時代」

桔梗ケ原病院副院長、原寛美先生
「当院に於いて行っている変形性膝関節症の治療について」

塩尻病院院長、福沢敬先生
「地域包括ケア病棟の導入にむけて」

当センター医療安全係長、丸山和子氏
「医療安全の組織と活動の実際」

中村 病院事務、立沢秀一氏
「地域包括ケアについて」をテーマとして来年2月13日土曜日に開催されることになりました。

本会は六病院の職員であれば誰でも自由に参加できます。六病院はこれまで「近いようで遠い」という趣きがなきにしもあらずでした。今回参加して、はじめて顔と名前が一致したという声も聞かれました。この研究会が、共通の医療圏で活動する六病院の職員のみえる交流の場として、また医療でのさまざまな経験を共有する場として、さらに発展していくことを期待したい

養護学校長新任の挨拶

校長新任のご挨拶

4月一日付で長野県寿台養護学校に校長として着任いたしました。前任校は千曲市にある長野県稻荷山養護学校です。

寿台養護学校は昭和51年に、まつもと医療センター様の前身である国立寿療養所内に、松本市立明善小学校の特殊学級として設置されたのが始まりです。以来、国立療養所東松本病院、国立療養所中信松本病院、独立行政法人国立病院機構中信松本病院、まつもと医療センターの歴史とともに歩んできました。その間、重度重複障がいのある児童生徒の教育だけでなく、病弱部として、病院の小児科に入院、通院をしている子供の学びの場としての役割も果たしてきました。いわゆる慢性疾患といわれるお子さんたちです。当時はネフローゼ等で長期の入院治療、生活規制を受けている子供が多くいました。現在は心身症や発達障がいは医療の進歩や方法とともに変化してきました。

まつもと医療センターの歴史とともに歩んでまいりました。設立の当時から本校を中心的な教育であった重度重複障がいのある子どもたちへの教育をさらに充実していくことを精一杯おこなってまいります。

また、設立の当時から本校の中心的

な教育であつた重度重複障がいのある子どもたちへの教育を取り戻してくられるような指導・支援を行っていきたいと思っています。

彼らが自己有能感や自尊感情を持つようになり原籍校適応の自信を取り戻してくれるような指導・支援を行っていきたいと思っています。

の一次的状態改善のために通院、通学している児童生徒が多く在籍します。多様化、複雑化する社会や人間関係の中で生きにくさを感じ、状態としての不登校等に陥ってしまった集団適応に課題を抱える子供が増えています。私たちはそのような子供に学習の場を提供するだけにとどまらず、まつもと医療センターでの治療方針に沿いながら、

安全な教育を実践し、重い障害のある子どもたちに、学ぶ喜びや人と関わる楽しさを十分に味わってほしいと考えています。

今後も院長先生はじめ病院の皆様に理解、ご指導をいただきながら、病気の子どもたちのために本校ができることを精一杯おこなってまいります。よろしくお願ひします。



長野県寿台養護学校
校長 中原順治

リハビリテーション科紹介

リハビリテーションといふ言葉は、以前に比べるとすいぶん市民権を得てきました。聞きなれた言葉になりつつあるように思います。一般には「社会復帰」という形で使われることが多いと思います。言葉の意味を少し解説させて頂きますと、リハビリテーション（Re-habilitation）のリ（Re）は「再び」の意味、ハビリテーション（habilitation）は「適した状態」という意味があります。つまりリハビリテーションとは「再び適した状態になる」と「本来あるべき状態への回復」などと訳されます。その人が本来持っていた生活や仕事の場に戻れるように援助することがリハビリテーションの意味になります。

当院のリハビリテーション科には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つの職種があります。理学療法士は、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行など基本動作といわれる機能を練習・再獲得させることを目的に行います。また物理療法という手段を使って体の痛みをとり、硬くなった筋肉や関節をほぐして動きやすくなる役割を担います。作業療法士は、食事・整容・着替え・トイレ動作・入浴などが日常生活で行う活動をできるだけ自力でできるよ

うに練習をしていくことが役割になります。その際に手足の動きをよくするために様々な「作業」を使いますが、それが作業療法の名称の所以になっています。言語聴覚士は、脳卒中などに伴う失語症や構音器官との発声に関する部分の障害によってコミュニケーションがとれない、様々な原因で飲み込みが悪くなり食事がとれなくなつた方などを対象に、発声・発語の練習、言葉の理解の練習、食べ物の飲み込みの練習などを行っています。ちなみに当院のリハビリテーション科の構成ですが、理学療法士22名（中信16名、松本6名）、作業療法士11名（中信7名、松本4名）、言語聴覚士6名（中信4名、松本2名）、事務員1名の40名となっております。特徴として、中信は神経難病、整形疾患、重心、小児外来などを、松本の場合は、循環器、脳外科、血液内科、消化器などの疾患を持つ人の機能回復や廃用症候群の予防を目的にリハビリを実施しています。



リハビリテーションは上記の3職種だけではなく、他の職種も含めて行われるものではないということを付け加えます。リハビリの場で練習したことなどが病棟生活や家庭生活の場で行われないと実際にはできるようになります。また残念ながら、リハビリの力だけでは障害が元通り良くならないことがあります。その場合は、様々な介護用品や福祉サービスなどを利用していく必要があります。その場合は、ソーシャルワーカーといわれる職種の人ですが、当院のように高齢の患者さんが多い所では活躍される機会が多いと思っています。

リハビリテーションは医師を中心とにリハビリテーション科職員、病棟職員、ソーシャルワーカー、そして一番は家族が協力し合って行っていくものだというこ

とを付け加えて終わりにします。



リハビリテーション科
作業療法士長
服部 正治

平成26年度 第2回院内研究発表会

臨床研究部長 武井 洋一

臨床研究部主催の院内研究発表会は年に2回、秋と冬に開催されます。

平成26年度の第2回院内研究発表会は2月10日火曜日16時より、中信松本病院第一会議室で開催されました。この院内研究発表会は、各部署の田頃の研究への取り組みの成果をお互いに理解し、医療水準の向上を目指すことを目的としています。

秋の研究発表は、国立病院総合医学の予行を兼ねているため、大部分がポスター発表となります。秋の研究発表となる今回は、スライドを利用した口演形式としました。当院は約100名の病院職員にお集まりいただき、3時間ほどの研究発表会では活発なディスカッションが行われました。

演題数は23題にのぼり、各部署の臨床研究や、日頃疑問に思っている

問題への取り組みが発表されました。それぞれの発表に対しても、ディスカッションとともに座長ならびに病院幹部による評価が行われ、下記のとおり優秀賞が3題、奨励賞が5題選出されました。後日表彰とともに、優秀賞には研究費5万円、奨励賞には研究費1万円が贈呈されました。

贈呈された研究費が今後の研究の発展の一助となることを期待しています。また平成27年度も同様の機会を設けたいと思いつますので、職員の方々は、研究発表にふるつてご参加いただくようお願いいたします。



平成26年度 第2回院内研究発表会

平成26年度 まつもと医療センター第2回院内研究発表会プログラム

平成27年2月10日(火)中信松本病院第一会議室 16時00分～19時10分

✿ = 優秀賞 ★ = 奨励賞

16時00分	開会のあいさつ (北野 喜良 病院長)		
--------	---------------------	--	--

16時05分	第Ⅰ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 渡辺 歩美(治験管理室)		
--------	-----------------------------------	--	--

1	村田理論を用いて終末期がん患者のスピリチュアルペインの一考察 ～関係存在・自律存在の再構築した過程通过对～	2病棟	宮崎日香里
★ 2	ミトン装着患者の手掌環境改善への取組み ～緑茶の継続使用による皮膚への影響を調査して～	7病棟	宮下 優大
3	日本語版ニーチャム混乱・錯覚状態スケール使用的有効性も検討 ～せん妄症状の統一した判断に向け～	5病棟	田村 淳美
4	ベッド転落予防の取り組み～付き添い者の意識調査から、ベッド転落 予防のオリエンテーションの改善～	1病棟	中村 美和
5	持続点滴を留置する際の視点の統一 ～圧痕形成したい患児の分析から考えられること～	1病棟	中村ひとみ
★ 6	側臥位の手術時に使用する腋窩枕の素材の検討 ～呼吸器外科患者の体圧を実際に測定してみて～	手術室	中川 亜紀

16時50分	第Ⅱ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 石井 優子(医療安全係長)		
--------	------------------------------------	--	--

7	みんなに選ばれる経口補水療法をより良い運用に ～患者・医療者の意識調査より～	手術室	中崎 恵子
8	患者の思いに沿った関わり ～看護師と患者の考え方のズレを最小限にするには～	1C病棟	齋藤 理沙
9	不要な加湿は過失です ～呼吸療法チームの介入による物品コスト削減～	2C病棟	飯ヶ濱 実
★ 10	身体抑制減少への取り組み ～当病棟における身体抑制の現状調査(第1報)～	2C病棟	加藤 浩史
★ 11	退院支援を行える看護師になるために	3A病棟	渋澤 綾子

17時30分	第Ⅲ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 武井 洋一		
--------	----------------------------	--	--

✿ 12	骨密度検査において患者体位が測定値に及ぼす影響について	放射線科	菅谷奈々恵
13	逐次近似再構成を用いた骨3D-VR画像の検討	放射線科	飯塚 一則
14	反応が少ない超重傷者のQOLを考える ～A氏の脳血流の変化を用いて～	3病棟	宇佐美英行
✿ 15	重症心身障がい児(者)の身体拘束時間を減らすための工夫 ～胃ろうチューブの変更と保護具の作成～	4病棟	両角 隆幸
16	当院での自家末梢血幹細胞移植の初症例	血液内科	三村 優仁
17	デノボ(de novo)B型肝炎発症の防止を目指して	内 科	古田 清

18時15分	第Ⅳ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 西巻 靖和(療育指導室)		
--------	-----------------------------------	--	--

18	当院における重症心身障がい児(者)への短期入所事業の経年の変化から、在宅支援について考える～過去17年分の利用実績を分析して～	療育指導室	畠田 遥磨
✿ 19	加速度計および三次元動作解析装置を用いた歩行中の重心移動幅の比較	リハビリテーション科	有賀 一朗
20	腹臥位腹部引き込み運動時の圧バイオフィードバック装置の圧と腹筋群の筋厚との関係	リハビリテーション科	杉本 穂高
21	広範囲腱板断裂術後に肩甲上腕関節への可動域制限を呈した1症例	リハビリテーション科	岡崎 瞬
22	両足サイム切断の後療法を担当した1症例当センターにおける胃瘻(PEG)および関連手技の現状	リハビリテーション科	桑原美智子
★ 23	重症心身障害児に対するベッド上遊び姿勢の検討	リハビリテーション科	田中 明莉

19時00分	挨拶	教育研修委員長	武井 洋一
--------	----	---------	-------



がん患者さんを支える周術期歯科診療

近年、手術や化学療法、放射線療法などの治療に際し、治療による合併症の予防や患者さんの生活の質（QOL）低下の防止のために、口腔ケアが積極的に行われるようになってきました。当院でも本年から地域歯科医療機関と連携させていただき、周術期口腔機能管理を開始しました。

1、周術期口腔機能管理とは？

がん等の治療で、手術や化学療法、放射線療法を受ける患者さんに對し、医科と歯科が連携して術前・術中・術後（周術期）を通じた口腔ケア（口腔機能管理）を行うものです。

全身麻酔の手術では、口腔内環境が悪いと、肺へ細菌が侵入する」と肺炎を発症したり、手術創感染の一因となったりする可能性があります。化学療法や放射線治療では、副作用による免疫能低下や血流障害、唾液分泌低下によって、口内炎や顎骨骨髄炎、口腔掃、義歯調整、摂食機能回復、動搖歯

乾燥、口腔内感染巣の悪化などを生じる恐れがあります。



往診によるベッドサイドでの術後口腔ケア

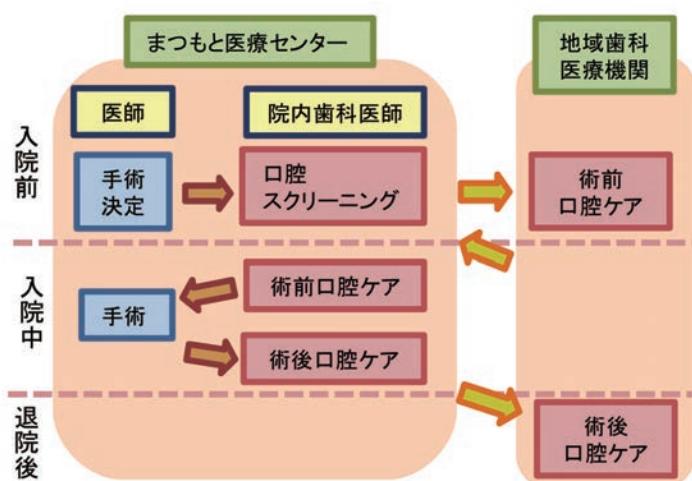
2、術前評価と周術期口腔機能管理

手術患者さんの術前評価との関連に焦点を当ててお話しします。術前管理で重要なことは、手術侵襲に伴う身体機能低下を最低限にしスムーズな術後回復が得られるよう、患者さんの体調・体力を可能な限り良い状態に整えておくことです。口腔機能管理も術前管理の一つとして重要なものとなります。

以前、手術前の麻酔科診察（術前診察）で、歯の動搖と痛みを訴えられた患者さんがおられました。院内歯科医師に動搖歯の処置と義歯調整を行つていただいたといふ、「先生、手術前にもりもり食べてこられましたよ。」と入院時、表情も明るくその患者さんとご家族が声をかけて下さいました。疾患の状態によつては術前に食事ができ

脱落予防、口腔トライブルの治療などを行い、口腔機能の維持・改善と衛生状態の改善を図ります。

がん患者さんを支える周術期歯科診療



周術期口腔機能管理の医科歯科連携・病診連携

ない患者さんもおられ、その場合は点滴からの栄養補給で体調管理をさせていただきますが、この患者さんのように、歯科診療により摂食状態を改善して手術に臨んでいただけの場合があります。

一方、昨日から歯が痛くなつたといふ患者さんが術前診察に来られましたが、手術日までの口数が少なく根本的な歯科治療が困難であつたため、院内

までの栄養補給で体調管理をさせていただきますが、この患者さんのように歯科診療により摂食状態を改善して手術に臨んでいただけの場合があります。

歯科医師の診察と説明の上で保存療法を選択されました。必要時は入院中も歯科医師の対応が可能であることで安心いただきました。

手術決定から手術日までの間に

までの歯科治療が必要なのか、まだ症状がなくても周術期に口腔状態が悪化する恐れのある状態は隠れていないか。そうした判断と精査・処置には、専門的な歯科領域の知識と技術が必要です。術前評価においても医科歯科連携が大切であることを実感しました。

3、地域歯科医療機関との連携

長野県の信州保健医療総合計画では、「医療提供体制の充実・強化」の項目において「医療機能の適切な分化と連携を進め地域全体で医療を支える体制の構築を目指す」としています。周術期口腔機能管理においても、医科歯科連携、病診（病院と地域歯科医療機関）連携の構築と推進は、地域全体の医療

地域歯科医療機関の先生方には、術前後の患者さんを紹介させていただいているところがあると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

周術期口腔機能管理の導入・運用に

あたり、塩筑・松本歯科医師会、松本歯科大学特殊診療科、信州大学歯科口腔外科の先生方に大変お世話になりました。この場をお借りし感謝申し上げます。口腔機能管理を通して、より質の高い周術期医療を提供できるよう努めるとともに、患者さんに口腔ケアの重要性を知つていただき、周術期に留まりず日常生活からの口腔の健康維持に繋がるよう願っております。



麻酔科 新倉 久美子



「臨床研究部」のご紹介

国立病院機構（以下NHO）の業務には三つの柱があり、診療事業、教育研修事業とともに「臨床研究事業」が掲げられています。この臨床研究事業を推進するにあたり、NHOでは多施設共同による臨床研究を行う拠点として、臨床研究センターを全国12か所に設置しています（名古屋医療センター、東京医療センターなど）。また分野横断的な臨床研究を、独自にあるいは多施設共同で行うため、全国71か所に臨床研究部が設置されており、そのひとつが「まつもと医療センター臨床研究部」です。当院の臨床研究部の正式設置は平成21年4月で、平成24年10月より私が臨床研究部の仕事をしています。まつもと医療センター臨床研究部は中信松本病院に設置され、治験管理室を兼ねており、臨床研究コーディネーター（CRC）2名と事務1名に、私を含めた4名が常駐しています（写真）。他に企画課職員1名、さらに松本病院にCRC（薬剤師）1名のスタッフが

臨床研究部の仕事に携わっています。臨床研究事業をさらに具体的に説明すると、NHOのホームページによれば掲げられています。「この臨床研究事業を推進するにあたり、NHOでは多施設共同による臨床研究を行う拠点として、臨床研究センターを全国12か所に設置しています（名古屋医療センター、東京医療センターなど）。また分野横

断的な臨床研究を、独自にあるいは多施設共同で行うため、全国71か所に臨床研究部が設置されており、そのひとつが「まつもと医療センター臨床研究部」です。当院の臨床研究部の正式設置は平成21年4月で、平成24年10月より私が臨床研究部の仕事をしています。まつもと医療センター臨床研究部は中信松本病院に設置され、治験管理室を兼ねており、臨床研究コーディネーター（CRC）2名と事務1名に、私を含めた4名が常駐しています（写真）。他に企画課職員1名、さらに松本病院にCRC（薬剤師）1名のスタッフが

臨床研究事業のなかでも、NHOとして特筆すべき事業に大規模臨床研究の推進があり、「EBM推進のための大規模臨床研究」「NHOネットワーク共同研究」「指定研究」の3つのカテゴリーがあります。「EBM推進のための大規模臨床研究」は本部主導のもと、豊富な症例と一定の質を確保することができる国立病院機構のスケールメリットを活かし、我が国では前例のない多施設による大規模な研究です。採択された課題について全国のNHO病院が協力し、データを数年かけて収集します。臨床における一般的な疑問



臨床研究部常駐スタッフ

が課題とされる」とが特徴で、平成26年度採択の「酸素投与による造影CT検査後の造影剤腎症予防効果の検討」については当院放射線科が参加しています。NHOネットワーク共同研究は、政策医療分野を含む21領域について、「領域」としてNHO研究ネットワークグループを構築し、統括するグループ化されています。



「臨床研究部」のご紹介

ーダー施設を中心に各病院が参加して、臨床の問題解決に焦点を当てた研究を行っており、当院では現在13のネットワーク研究に参加しています。指定研究事業は、その時々の重要なテーマに焦点を当てた研究事業であり、この事業も多施設共同で調査研究を行っています。年々新たな研究がスタートしていく状況を病院スタッフに紹介、参加を促すことは、臨床研究部の重要な仕事のひとつと考えています。

新薬等の治験推進も臨床研究部が管轄する大切な仕事の一つで、新しい治療薬や医療機器の治験（臨床試験）に積極的に取り組むことが奨励されています。先に述べたように、当院には実験管理室が設置されており、臨床研究部長は実験管理室長も兼ねているため、治験件数を増やすよう努力しているところですが、CRCが2病院を行き来して業務遂行にあたっており、効率的な治験導入が困難になっています。このため実験施設支援機関（SMO）へ

の一部外部委託も開始したといいです。さて、この4月より「臨床研究に関する倫理指針」と「疫学研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」として施行されました。このような倫理指針の変更に際し、速やかに病院スタッフに対して周知、研修を行い、新規に合致するようにシステムを改変していくことも臨床研究部の仕事です。

年に2回、臨床研究部主催でメディカルスタッフ主体の研究発表会を開催

し、優秀演題賞を表彰する、業績録年報を作成する、倫理研修を定期的に行なう、メディカルスタッフの研究の資金面での援助、といった事業を始めているとのことです。日常の臨床の中でも疑問に思ったことから研究が始まるといわれていますが、「臨床研究部」が少しでもそのお役に立てれば、と願っています。



臨床研究部長

武井 洋一

こしはら内科クリニック紹介



こしはら
腰原 ひろし
啓史 先生



〒399-0701 長野県塩尻市広丘吉田551-5
TEL(0263)86-5480
URL: <http://www.koshiharaclinic.jp>

診療時間

時間／曜日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○	○	×	○	○	×

*休診日／日曜日・祝日 *水曜日・土曜日は午前のみ

まつもと医療センターの皆様には、在籍中大変お世話になりました。このたび10年間勤務させていただきました、まつもと医療センターを平成27年4月に退職し、不慮の事故で亡くなり閉院しております。亡き父の志を引き継ぎ実家の腰原医院をリニューアルし、こしはら内科クリニックとして、5月15日より再開することとなりました。この原稿を執筆時は、開業準備中で準備の合間をみながら書かせていただきました。

当院の理念としては、地域に密着した温かく・つながりのある医療を提供するホームドクターを目指し、地域の皆さんに貢献できればと考えております。

生活習慣病（高血圧、高脂血症、糖尿病等）、神経疾患、認知症を含め中信病院で学び経験したことを生かし地域に密着した医療を展開していきたいと思います。特に中信病院では、神経難病（パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症）の寝たきりの方、気管切開、人工呼吸器を装着された患者様を中心に診療をされる場合、敬遠されがちでございました。

まつもと医療センターをはじめ近隣の医療機関の皆様には、お世話になる機会が多くなると思いますが今後ともよろしくお願い致します。また、私でお役に立てることが有れば何なりと申し付けいただければと存じます。

まつもと医療センターの皆様には、在籍中大変お世話になりました。このたび10年間勤務させていただきました、まつもと医療センターを平成27年4月に退職し、不慮の事故で亡くなり閉院しておりました。亡き父の志を引き継ぎ実家の腰原医院をリニューアルし、こしはら内科クリニックとして、5月15日より再開することとなりました。この原稿を執筆時は、開業準備中で準備の合間をみながら書かせていただきました。

当院の理念としては、地域に密着した温かく・つながりのある医療を提供するホームドクターを目指し、地域の皆さんに貢献できればと考えております。

まつもと医療センターの皆様には、在籍中大変お世話になりました。このたび10年間勤務させていただきました、まつもと医療センターを平成27年4月に退職し、不慮の事故で亡くなり閉院しておりました。亡き父の志を引き継ぎ実家の腰原医院をリニューアルし、こしはら内科クリニックとして、5月15日より再開することとなりました。この原稿を執筆時は、開業準備中で準備の合間をみながら書かせていただきました。

当院の理念としては、地域に密着した温かく・つながりのある医療を提供するホームドクターを目指し、地域の皆さんに貢献できればと考えております。

認知症の方々の意図が尊重され、高齢者数も上昇し団塊の世代の方々が全員75歳以上になる2025年には675万人の方が認知症になるとと言われています。

今後、高齢化に伴い、認知症住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すため、早期発見、早期治療、地域で支えられる環境づくりに尽力したいと考えております。



訂正とお詫び

●広報誌24号に10頁記載、緑ヶ丘青木医院紹介の記事の中で、「午前の診療時間が8:30～13:00」とあります。ですが、正しくは「8:30～12:00」、土曜日のみ8:30～13:00でございました。お詫びして訂正致します。

第9回国立病院機構関信グループ病院説明会に参加して 4月24日

幕張メッセ

教育担当専任
看護師長
篠原 和美



4月24日に、「幕張メッセ」で行われたNHOの病院説明会に、樋口看護部長他8名でまつもと医療センターをアピールしてきました。「看護体験コーナー」では、病棟看護師の内川さん、竹川さんの経管栄養・吸引実技指導は好評で、来場者が後を絶ちませんでした。

「教えてスペシャリストへのキャリアプラン」のコーナーでは、救急看護認定看護師の飯ヶ瀬さんが、「やりがい」を何に求めるのかについて、実際の活動内容に加え、認定看護師の誇りややりがいを熱く語り、学生さんは熱心に耳を傾けていました。病院の説明だけでなく、真剣に将来のことを考えている学生さんに心から頑張れエールを送って来ました。

少しひらめく
被ばく線量は
それでも被
ばく線量は
少ないに越
く問題あり
健康には全
く装置の被ば
く線量でも
通常のCT
装置の被ば
く線量でも
健康には全
く問題あり
ませんが、
それでも被
ばく線量は
少ないに越
く



(CT装置の画像)

この装置一式が揃う施設は、長野県下初であり、従来のマルチスライスCT装置では成し得なかつた特徴のある検査が可能となりました。

一つ目の特徴として動きのある心臓を高精度で撮影することができる機能です。デジタルカメラの手ぶれ補正に近い手法で、冠動脈画像から血管の動きやブレなどを認識し、血管を本来あるべき姿に戻すことによって、動きの抑制された良質な画像提供が可能となりました。

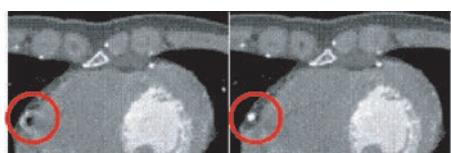
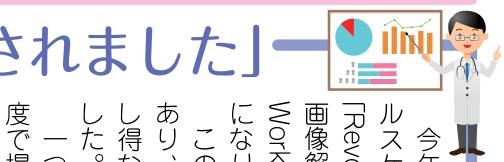
今年2月に導入したCT装置一式はGEヘルスケア・ジャパン社製の最新・最上位機種「Revolution GS1 FREEdom」、ネットワーク型画像解析専用ワークステーション「Advantage Workstation」、画像再構成システム「Veo」になります。

二つ目の特徴は一般X線撮影と同程度の低被ばく線量で、現行のCT装置を上回る、高画質な画像を提供することができる画像再構成技術です。通常のCT装置の被ばく線量でも、現行のCT装置を上回る、高画質な画像を提供することができる画像再構成技術です。

三つ目の特徴は2つの異なるエネルギーX線を利用して撮影を行うDual Energy機能です。これにより造影剤成分のみの抽出、骨や血管、石灰化などの組織分別、および腎結石の組成解析などの情報を画像化することが可能となりました。さらにこの機能を応用することによって腎機能が悪い方に対する造影剤量の低減や体内金属の影響を最小限に抑えた画像の提供などが期待されます。

他にも多くの最新技術が搭載されており、全身領域でハイスピードかつハイクオリティな画像を提供することが可能となつております。

診療放射線科
照射主任
飯塚 一則



(肺動脈画像) 左が従来の画像。右が造影剤成分を強調した物質密度画像



平成26年度出前講座報告と今年度の予定について

3年前に北村外科部長（地域医療連携室長補佐）が発案した「車座健康講座」に端を発します。この取り組みを更に発展させるべく26年度から当センター経営企画室を新たな事務局として、名称も『まつもと医療センター出前講座』へリニューアルしました。講座内容に精通した当センター職員が、地域住民の皆さんとの健康増進や疾病の予防に役立つ知識を直接提供（出前）することを目的として活動しています。



「事業所単位での AED 講習」(26.12.3 実施)

平成26年度は松本市、塩尻市、山形村の25団体から申込があり、延べ47回の講座を地域住民の皆さんに提供することができました。出席者からは「具体的でわかりやすい」「疑問に対し直接質問することができる」等、感謝のご意見を多くいただきました。また講師を担当した当センター職員へのアンケート調査では、診療とは、やりぐり

『まつもと医療センター出前講座』は、3年前に北村外科部長（地域医療連携室長補佐）が発案した「車座健康講座」に端を発します。この取り組みを更に発展させるべく26年度から当センター経営企画室を新たな事務局として、名称も『まつもと医療センター出前講座』へリニューアルしました。講座内容に精通した当センター職員が、地域住民の皆さんとの健康増進や疾病の予防に役立つ知識を直接提供（出前）することを目的として活動しています。

平成26年度は松本市、塩尻市、山形村の25団体から申込があり、延べ47回の講座を地域住民の皆さんに提供することができました。出席者からは「具体的でわかりやすい」「疑問に対し直接質問することができる」等、感謝のご意見を多くいただきました。また講師を担当した当センター職員へのアンケート調査では、診療とは、やりぐり

や時間調整に苦心する等の声がありましたが、「もっと多くの住民の方に参加していただきたい」「住民の方にわかりやすく説明し理解していただくことはハドルが高いがやりがいはある」等、今後の実施について前向きな感想が多く寄せられました。

平成27年度は、講座の再登録を実施したところ、担当者の異動などで変更した講座もありますが、昨年度と同じ37講座となりました。講座のテーマは、幼児・学童向けの内容から当センターで取り組んでいる高度医療の話題まで幅広く取り揃えています。また実技を交えた講座も複数あり、バラエティに富んだ内容となっています。詳細は当センターホームページにアクセスいただくか、経営企画室まで問い合わせをお願いします。地域住民の皆さん多くの参加をお待ちしています。

本講座の実施に当たっては、松本市環境事業部、塩尻市役所（旧）市民担当の皆さんからは多大なるご理解とご協力を賜りました。また講座開催の直接窓口となる公民館、福祉ひろば、町会、学校PTA、職場、各種団体のご担当におかれましては、希望講座の取り纏めから地域住民に対する案内、開催当日の会場準備まで、いつもご尽力いただいています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



今後とも引き続き、『まつもと医療センター出前講座』へのご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。



「家庭でできる感染対策」(26.9.5 実施)



「ものわすれと認知症」(26.11.21 実施)

地域医療連携室長
副院長
大原月原
研究
経営企画係長
地域連携室(併任)

地域医療連携室長
副院長
大原月原
研究
経営企画係長
地域連携室(併任)

新任・退任医師紹介



新任
医師

松本病院

よろしくお願いします

■血液内科



伊藤俊朗

血液内科医長
平成4年卒
専門：血液内科、
造血幹細胞移植

日本内科学会、日本血流学会、日本造血細胞移植学会

日本内科学会認定医、日本血流学会認定医

信州大学では造血幹細胞移植を中心とした診療をしてきました。その経験を生かし、まつもと医療センターでも最新の診療を提供できるよう頑張りたいと思います。趣味でトライアスロンをやってます。

■血液内科



磯部玲

血液内科医師
平成24年卒
専門：血液内科

日本内科学会、日本血液学会

信州大学からきました、磯部と申します。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、頑張りますのでよろしくお願いします。

■消化器内科



奥原禎久

消化器内科医師
平成18年卒
専門：消化器内科、
消化器内視鏡

日本内科学会、日本ガバセル内視鏡学会、日本消化器内視鏡学会、
日本アフェレーシス学会、日本消化器病学会、日本東洋医学会、
日本消化管学会、日本ヘリコバクター学会

日本内科学会認定医、日本ヘリコバクター学会認定医

消化器一般的な診療から、内視鏡診療などの専門的な診療まで、広く取り組んでいます。地域の医療に役立てるよう頑張りたいと考えておりますので、宜しくお願いします。

新任
医師

中信松本病院

■小児科



北原正志

小児科医長
平成2年卒
専門：小児科一般、
小児腎臓病

日本小児科学会、日本腎臓病学会
日本小児科学会認定専門医

■小児科



山内翔子

小児科医師
平成21年卒
専門：小児科一般

日本小児科学会、日本小児神経学会

お子さんとその家族の気持ちに寄りそった医療を提供できるように、精一杯頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

■呼吸器外科



國光多望

呼吸器外科医師
平成19年卒
専門：呼吸器外科

日本外科学会、日本臨床外科学会、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、日本胸部外科学会

外科専門医、呼吸器外科専門医

外科医として精進しつつ、地域医療に貢献できたらと思います。よろしくお願ひ致します。

■神経内科



福島加奈

神経内科医師
平成11年卒
専門：神経内科

日本内科学会、日本神経内科学会、日本認知症学会
日本内科学会認定医、日本神経内科学会専門医、
日本認知症学会専門医

平成27年4月から非常勤でお世話になります。よろしくお願ひします。

■呼吸器内科



金城匠

呼吸器内科医師
平成23年卒
専門：呼吸器内科

日本内科学会、日本呼吸器学会

■神経内科



宮平鷹揚

神経内科医師
平成24年卒
専門：神経内科

お世話になりました



退任
医師

松本病院

■血液内科

川上徹

血液内科医師

■放射線科

古川智子

放射線科医師

退任
医師

中信松本病院

■小児科

山田慎二

小児科医長

■小児科

竹内さつき

小児科医師

■神経内科

腰原啓史

神経内科医師

お知らせ

まつもと医療センター

勉強会

診療所の先生方とセンター医師
合同の勉強会です。

毎月第3木曜日 内科・外科勉強会
松本病院第2カンファレンスルーム
19時00分～20時00分

まつもと医療センター

病院祭

日 時／9月26日(土) 10時00分～
テーマ／「広げよう
地域の輪」

会 場／松本病院

まつもと医療センター

日 時／6月28日(日) 13時30分～
テーマ／「まつもと医療センター
の今、そして、これから」
場 所／塩尻市市民交流センター
（えんぱーく）3F多目的ホール
演題、講師／
「認知症について」
武井 洋一
奥原 稔久
「胃がんのおはなし」
小池祥一郎
「病院の今、そしてこれから」

市民公開健康講座

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基本方針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
 2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
 3. 患者さんの思いを大切にし、敬意と思いやりの心で接します
 4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
 5. 教育研修の充実を図り、職員の能力向上と人材育成に努めます
 6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
 7. 明るく健全な病院経営を行います

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
 2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
 3. 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
 4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
 5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
 6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
 7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
 8. 健康教育を受ける権利
 9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利



まつもと医療センター
第25号 平成27年6月1日発行
発行人 院長 北野 喜良

松本病院
〒399-8701 長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL 0263-58-4567 FAX 0263-86-3183

TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183
中信松本病院
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190



お過ぎでしようか。新年度を迎えて皆様いかが
今年の4月は雨が多く、あつたような気がします。先日、初めて松本城と高遠の夜桜を見に行きました。昼の桜も良いですが、ライトアップされた桜はまた一味違った美しさがありますね。

私事ですが、まつもと医療センターに来て一年が経ちました。まだまだ未熟だと感じることが多い日々ですが、センターの一員として地域の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思いま

●編集後記●